

葛飾北斎

(二七〇—一八四九)

江戸本所割下水に生まれる。勝川春章に弟子入りし、はじめ春朗と名乗る。常に自己変革を求め、宗理、辰政、戴斗、為一、画狂老人、疋など、生涯に数多くの画号を用いた。浮世絵に加え、狩野派、琳派、西洋画など幅広い絵画様式を旺盛に学び、役者絵、美人画、

武者絵、花鳥画、絵手本など浮世絵のあらゆる分野で優品をのこした。森羅万象を描き尽くした「北斎漫画」や風景画の揃物に新機軸を打ち出した「富嶽三十六景」は特に高く、十九世紀後半、西洋の芸術家たちに清新な刺激を与えたことでも知られている。

北斎研究で国内外に知られる美術史家・永田生慈氏(一九五一—二〇一八)は、半世紀にわたり北斎やその門人の作品を蒐集しました。そのコレクションには、北斎の青年期から晩年期までの各期の錦絵、摺物、版本、肉筆画があり、中には保存状態が良い初摺の逸品や、世界で一点または数点しかない貴重な作品も数多く含まれています。さらに蹄齋北馬、柳々居辰斎、門人たちの作品も幅広く網羅しており、その総数は二〇〇〇件を超えます。北斎の七十年に及ぶ画家人生は、もちろん、同時代や後世に与えた影響関係まで多角的に概観できる内容であり、北斎に関する個人コレクションとしては世界屈指の規模を誇るといえるでしょう。

二〇一七年度、島根県はこの「永田コレクション」の一括寄贈を受けました。当館では今後およそ十年をかけてこの壮大なコレクションを調査し、数回の展覧会を通して、その全貌を公開する予定です。まずは受贈記念、当館の開館二十周年記念に当たる本展において、コレクション中の主要な作品をお披露目いたします。永田コレクション全貌公開へ向けた「序章」をどうぞお楽しみください。



《鍾馗図》[前期展示]
北斎画業初期の「春朗」の落款を有する肉筆画としては現存唯一の作品



《富嶽三十六景 凱風快晴》[前期展示]
北斎風景版画の傑作「富嶽三十六景」中の著名な「三役」が前期・後期で揃い踏み



《百物語 お岩さん》[前期展示]
北斎の奇想溢れる幽霊画。同揃物中の「こはだ小平二」「しうねん」も展示

2019
前期 2/8(金)→3/4(月)



蹄齋北馬《婦女風俗画帖》
[通期展示(展示箇所変更)]
蹄齋北馬、魚屋北溪、柳々居辰斎ら葛飾派の絵師25名の作品を併せて展示



《赤壁の曹操図》[後期展示] 三国志の英雄、曹操を緻密な筆致と鮮麗な色彩で描いた最晩年を代表する肉筆画



『北斎漫画』(初摺)
[通期展示(展示箇所変更)]
世界に名高い北斎絵手本の決定版。初編から十五編まで全編を展示



2019
後期 3/6(水)→3/25(月)



《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》[後期展示]



『みやことり』[後期展示]
北斎が挿絵を手掛けた狂歌絵本の傑作。23の挿絵が全て揃う完本は世界で2例のみ



《婦女風俗図》[後期展示]
北斎が「春朗」を名乗っていた画業初期の極めて貴重な肉筆美人画



《富嶽三十六景 山下白雨》[後期展示]

島根へ寄贈された世界屈指の「北斎」コレクション
―全貌公開へ向けた「序章」はじまる―

- 〈一章〉北斎の錦絵 二〇一三年頃
 - 〈二章〉北斎の摺物 二〇一四年頃
 - 〈三章〉北斎の版本 二〇一六年頃
 - 〈四章〉北斎の肉筆画と葛飾派 二〇一八年頃
 - 〈終章〉永田コレクションの全貌 二〇一九年頃
- (※いずれも展覧会名は仮称、開催年は予定です)

永田生慈

(一九五一—二〇一八)

島根県津和野町出身。元・太田記念美術館副館長兼学芸部長(二〇〇八年退任)。一九九〇年、津和野町に自身のコレクションによる葛飾北斎美術館を開館(二〇一五年閉館)。北斎に関する多数の論文・著書・編著があり、国内外で多くの北斎展の監修を務めた。

(例) 東武美術館ほか天北斎展一九九三年、グラン・パレ・ナショナル・ギャラリー(Hokusai 1760-1849)二〇一四―一五年。二〇一六年、フランスの芸術文化勲章オフィシエ受章。二〇一七年、所蔵するコレクション約二〇〇〇件を島根県に寄贈した。

同時期開催
新・北斎展 HOKUSAI UPDATED
2019年1月17日(木)―3月24日(日)
会場:東京・森アートセンター・ギャラリー
当館が特別協力する展覧会。
館蔵の北斎作品約350件も展示されます。

次回 開館20周年記念展
企画展 堀江友聲―京に挑んだ出雲の絵師
予告 2019年4/24(水)〜6/3(月)

島根県立美術館
〒690-0049 島根県松江市袖師町1-5
TEL.0852-55-4700 FAX.0852-55-4714
http://www.shimane-art-museum.jp

交通案内
JR松江駅から徒歩約15分
JR松江駅から松江市営バス(南循環線内回り)6分
→「県立美術館前」下車
観光ループバス(レイクライン)
→「県立美術館前」下車
山陰道→松江西ランプ→車で約5分
国道9号袖師交差点南進
(駐車場より地下道をご利用ください)
※3時間まで無料

開館時間:(2月)10:00~18:30(展示室への入場は18:00まで)
(3月)10:00~日没後30分(展示室への入場は日没時刻まで)
休館日:火曜日
主催:島根県、島根県立美術館、TSK山陰中央テレビ、NHK松江放送局、日本経済新聞社、山陰中央新報社、SPSしまね

補助:平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
後援:朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、BSS山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン

観覧料:
[一般]当日券/企画展1,000(800)円、企画・コレクション展セット1,150(920)円
→「県立美術館前」下車
前売券/企画・コレクション展セット900円
[大学生]当日券/企画展600(450)円、企画・コレクション展セット700(530)円
[小中高生]当日券/企画・コレクション展セット300(250)円

●()内は20名以上の団体料金 ●小・中・高生の学校教育活動での観覧は無料 ●身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付添の方には無料 ●前売券は、ローソン各店(Lコード61972)、チケットぴあ窓口(Pコード769-437)、セブンチケット及び、各プレイガイドにてお求めになれます(販売期間:1/1~3/25)

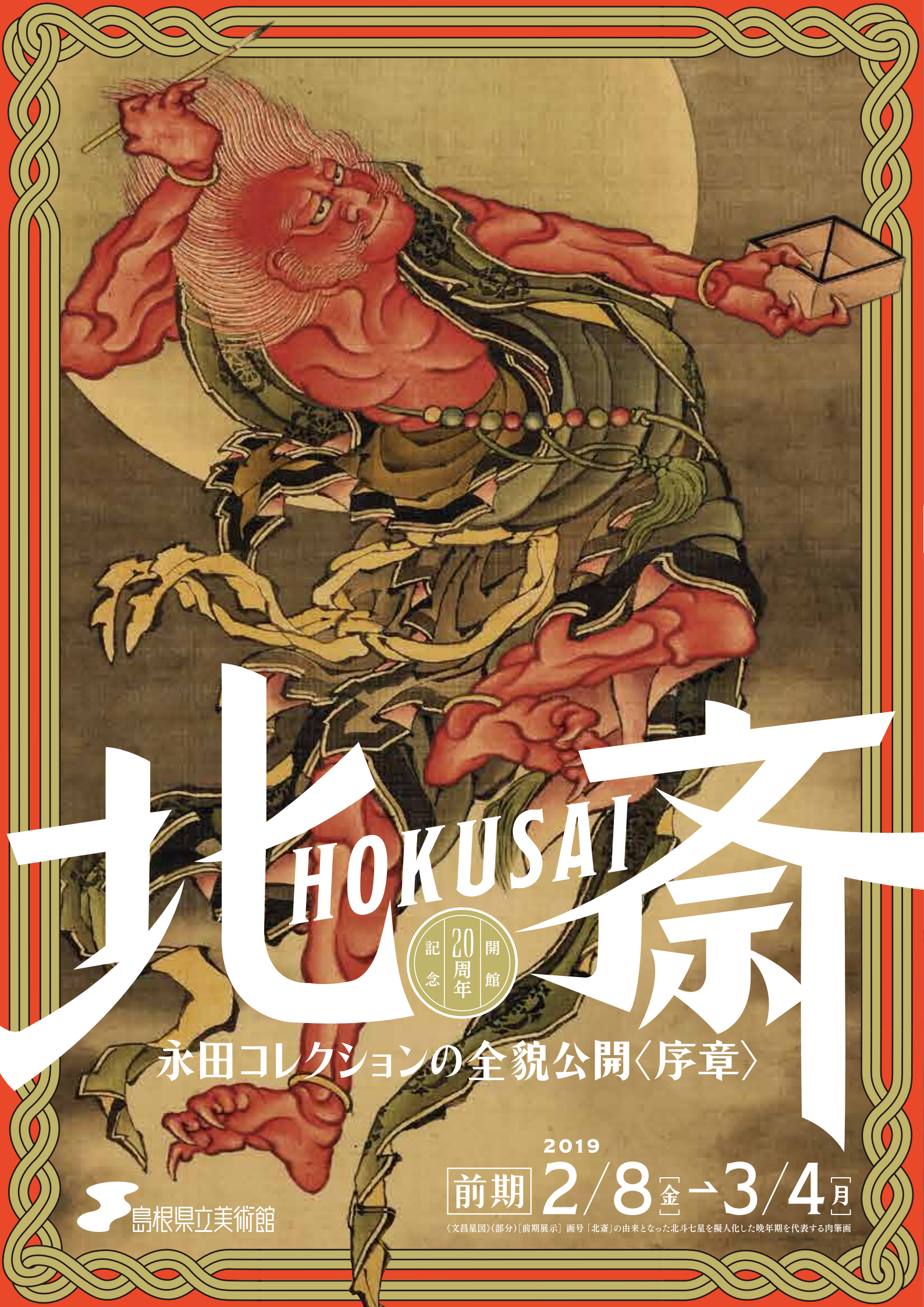
関連イベント:
1.永田生慈氏が語った「北斎」
―永田コレクション受贈報告を併せて【聴講無料】
過去に当館で開催された故・永田生慈氏の講演会映像を、新撮した精細な画像と共に放映。併せてこの度の永田コレクション受贈について、担当学芸員がご報告します。
[日時]2月17日(日)、3月21日(木・祝) 14:00~(各日13:30開場/約2時間)
[場所]美術館ホール(190席)[当日先着順]

2.記念講演会【聴講無料】
[演題]「永田コレクションについて」
[講師]根岸 美佳(浮世絵研究家・元すみだ北斎美術館学芸員)
[日時]2月24日(日)14:00~(13:30開場/約1時間30分)
[場所]美術館ホール(190席)[当日先着順]

3.ギャラリートーク(担当学芸員による作品解説)【要企画展観覧料】
[日時]2月11日(月・祝)、3月16日(土) 14:00~
[場所]企画展示室

4.美術館キネマ「百日紅~Miss HOKUSAI~」【鑑賞無料】
[日時]2月10日(日) ①10:30~ ②14:00~(各回30分前開場/約1時間30分)
[場所]美術館ホール(190席)[当日先着順]

5.「北斎」ロビーコンサート
~歌が絵になる、絵が歌になる「オペラ北斎」より~【鑑賞無料】
[日時]3月17日(日) ①10:30~ ②13:00~(各回約30分)
[作曲]竹内 一樹(作曲家)
[出演]松江ブラバ少年少女合唱隊(合唱) 鈴木 奈菜(ダンサー)
[場所]美術館ロビー



北斎 HOKUSAI

記念 20周年 開館

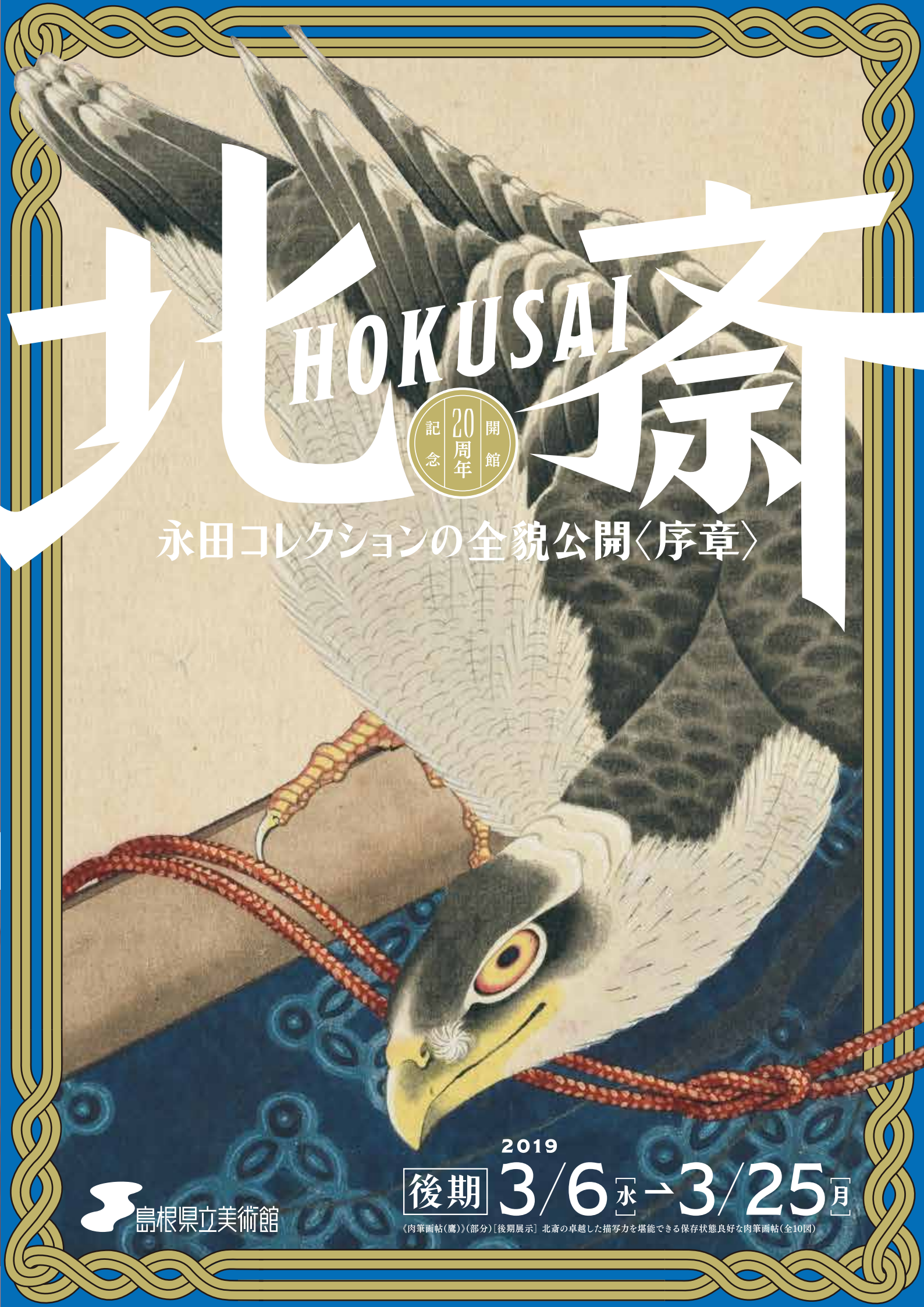
永田コレクションの全貌公開〈序章〉

2019

前期 2/8_金 → 3/4_月

島根県立美術館

(文昌星図)(部分)[前期展示] 画号「北斎」の由来となった北斗七星を擬人化した晩年期を代表する肉筆画



北斎 HOKUSAI

記念 20周年 開館

永田コレクションの全貌公開〈序章〉

2019

後期 3/6_水 → 3/25_月

島根県立美術館

(内筆画帖(鷹))(部分)[後期展示] 北斎の卓越した描写力を堪能できる保存状態良好な肉筆画帖(全10図)